

学校教育目標との関連

教育目標			
知	かしこく	意欲的に学ぶ子	よく考え表現する子
徳	あたたかく	仲間と共に成長する子	全ての命を大切にする子
体	つよく	健康でたくましい子	目標をもってやりぬく子 重点目標

児童の実態

(1) 学校アンケートより

児童アンケートで「めあてをもって学習ができる」「最後まで諦めずに取り組むことができる」と回答している児童は80%以上いる。しかし、保護者アンケートでは、「自らがめあてをもち、学習の見通しをもって学習を進めている」「個に応じた指導が行われている」に課題を感じている。そこで、子供たちが目的をもって学習を進めたり、一人一人に寄り添った丁寧な指導を行ったりすることについては更に改善を図る必要がある

(2) 体力テストより

体力テストの結果としては、総合的に見て、どの学年もおおよそ全国の平均程度の数値であり、東京都の平均とほぼ等しいか、平均より高い傾向がある。ソフトボール投げは、平均を下回る結果が多かった。上体起こしも平均を下回る場所が多かった。近年、体を動かす機会・場所・時間が減り、主体的に運動に取り組む姿勢を高めていくことが課題である。

1 すべての授業において年間を通して取り組む授業改善の視点

～これまでの校内研究の取り組みを生かして～

(1) 問題解決的な学習 (H26年度校内研究)

児童全員が、一単位時間の授業を通して学習に対する充実感や達成感を味わうことのできる授業を目指す。そのために、児童の実態に適応する明確な課題と活動内容を設定していく。

〈具体的な実践例〉

- ・学習問題を児童自身に考えさせたり、めあてに対して必然性のある活動を取り入れたりすることで、児童主体の授業作りを実践する。
- ・単元の学習計画表や自分のノートを活用させる習慣を定着させることで、見通しをもって自ら学習に取り組んだり、既習事項を活用しながら解決したりできるようにする。
- ・学習問題を追究する段階では、ペアや小グループでの活動を取り入れることで、自分と友達の考えの相違点に気付いたり、自分の考えを深めたりすることができるようにする。
- ・一単位時間の終末には、めあてに対する振り返りの時間を確保し、自分が学習したことやできるようになったことを実感させることで、充実感や達成感を味わえるようにする。

(2) インクルーシブ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習 (H27・28年度校内研究)

全ての子供にとって「分かる・できる」「楽しい」授業を目指す。そのために、児童理解を徹底し、全体指導の中で一人一人に応じた支援をしていくことを常に意識して授業を実践していく。

〈インクルーシブの視点〉

学習意欲の向上の工夫 (学習上の困難を克服するための配慮) 自信を持たせる工夫 (心理面の配慮)

〈本校のユニバーサルデザインの定義〉

- 焦点化…授業のねらいに合っためあてと活動を設定し、児童に思考させる視点を明確にすることで、ねらいを達成できるようにする。
- 視覚化…資料や具体物を活用したり言葉を見える化したりすることで、確かな理解のもとで思考させられるようにする。
- 共有化…児童同士の関わり合いを通して共通点や相違点に気付かせ、自分の考えを深められるようにする。

〈ユニバーサルデザインの手立て〉

- ・環境の工夫…落ち着いた教室環境、見やすい掲示物など
- ・活動の工夫…効果的なペア、グループ学習など
- ・教材の工夫…ヒントカード、視覚教材の効果的活用など
- ・評価の工夫…児童に対する明確な到達目標の提示、評価方法の明確化など
- ・情報伝達の工夫…構造的な板書、ハンドサインなど

2 校内研究を主軸とした授業改善プラン

研究主題

「健康でたくましく、目標をもってやりぬく子供の育成」
～体育授業モデル・体力向上カリキュラムづくりを中心にして～

主題設定の理由

学校は学びの場であり、その主体は子供である。子供は学習や生活など、様々な教育活動に主体的に関わりながら目標達成や課題解決に向けて活動し、生きるために必要な資質・能力(生きる力)を身に付けていく。

本校では、生きる力として学習指導要領に示された「未来を切り拓くために必要な資質・能力」を教育目標(つよく・かしこく・あたたかく)の育てたい子供の姿とし、全ての教育活動において子供の主体性を生かした学校づくりを進めている。本年度は、昨年度までの研究成果を踏まえ、教育目標「つよく」(健康でたくましい子・目標をもってやりぬく子)を重点目標とするとともに、教育目標「つよく」の目指す子供の姿を研究主題とし、その具現化を図る。

研究仮説

- (1) 活動の目標設定や自己評価等を行い、目標を明確にすることで、目指す児童像に近づけよう。
(学びに向かう力、人間性等) ※令和2年度重点
- (2) 課題解決に向けた学習課程の設定をすることで、自ら考えたり工夫したりしながら課題を解決することができるだろう。
(思考力・判断力・表現力等)

目指す児童像

低学年	中学年	高学年
目標をもってやりぬく子 体験をもとに、目標をもって取り組む児童	自から目標をもってやりぬく子 体験や経験をもとに、自ら目標をもって取り組む児童	よりよい目標をもってやりぬく子 ふり返りをもとに、自分に合った目標をもって取り組む児童

研究内容

研究の焦点化を図るために、体育の授業と体力づくりの活動を中心に研究を進め、研究成果を教育目標に掲げた他の資質・能力の育成に生かしていく。具体的には、問題解決的な授業、ユニバーサルデザインの授業、3つの手立て(意欲・思考・表現)と習得と活用のサイクルにより力(資質・能力)を育てる授業を基盤とした体育授業モデルをつくる。また、令和2年度コーディネーショントレーニング地域拠点校として、脳・神経・筋肉等の調和的発達を促進し、体力向上を図ることが期待できるコーディネーショントレーニングを取り入れた体力づくりの活動を体育授業と関連付けてカリキュラム化し研究主題に迫る。さらに、プラタナス及びはばたきにおける自立活動にもコーディネーショントレーニングを取り入れ、特性に応じた指導の改善・充実にもつなげていく。

体育授業モデル2020

